

魅力発信！えひめ農業

令和7年 10月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム > 仕事・産業 > 農業 > 農産園芸課 > 農産物の生産振興

※2 この動向は、10月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570
愛媛県松山市一番町4丁目4-2
(TEL) 089-912-2558
(FAX) 089-912-2564
<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

目次

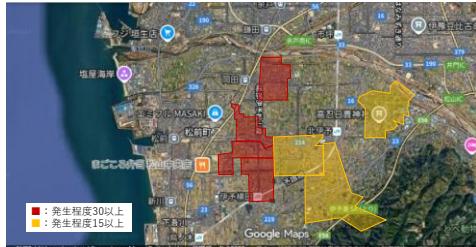
目次	1
10月のトピックス5選	3
サル捕獲演習を実施	3
出前授業で特産オリーブの魅力を中学生に伝える	3
そらまめの栽培状況アンケートを実施	4
「河内晩柑」の販路拡大に向けた輸出支援	4
篤農家から栽培技術を学ぶ～「媛小春」秋季現地研修会を開催～	5
えひめ農業	6
■ 東予地方局 地域農業育成室	6
ナガエツルノゲイトウの駆除対策を実施	6
青年農業者のプロジェクト発表で中国四国ブロック最優秀賞を受賞	6
新規就農者が花木栽培を学ぶ研修会を開催	7
さといもの新たな種芋増殖技術の確立に向けて収量調査を実施	7
白いも実証ほの収穫調査を実施	8
「東予で農業ボランティア」今治市へ横展開始める	8
■ 東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	9
ベテラン農家が新規栽培希望者に挿し木指導	9
認定農業者がさといもの視察研修を実施	9
■ 東予地方局 産地戦略推進室	10
オランダ式環境制御技術の導入に向けてフォローアップ研修会を開催	10
いちご花芽検鏡の手法を学ぶ研修会の開催	10
首都圏の市場で花木をPR	11
東予花木生産者のネットワークが始動	11
石鎚黒茶の新茶を市民に披露	12
コーヒーの試験栽培を開始	12
■ 今治支局 地域農業育成室	13
シュンギク品種試験の実施	13
農福連携に新たなさといも生産者が参加	13
経営開始に向けた経営研修会を開催	14
かんきつ園鳥獣被害軽減に向けた集落見回り活動	14
■ 今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	15
鳥獣害防止対策集落見回り活動を実施	15
■ 今治支局 産地戦略推進室	15
イタリア雑誌・レストランとコラボしたイタリア野菜・オリーブ収穫イベントを支援	15
■ 中予地方局 地域農業育成室	16
女性農業者がかんきつ栽培技術について視察	16

JA と連携した就農研修生に対する指導の強化.....	16
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班.....	17
高校と連携して女性農業者組織の商品開発を支援.....	17
集落見回り活動による鳥獣害対策を強化.....	17
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班.....	18
トマトの高温対策品種研修会を開催.....	18
青年農業者組織が餅つき実演販売を実施.....	18
「久万高原秋の収穫祭」で指導班の活動を紹介.....	19
■中予地方局 産地戦略推進室.....	19
甘平の裂果対策実証について.....	19
■南予地方局 地域農業育成室.....	20
かんきつ日焼け果軽減実証の結果概要.....	20
宇和島市女性農業者グループの活動が始動.....	20
農福連携による市田柿の収穫体験支援.....	21
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班.....	21
鳥獣害防止対策集落見回り活動を実施.....	21
水田の自動水管理システム等を視察.....	22
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班.....	22
青年農業者が県内かんきつ産地で視察研修を実施.....	22
就労支援事業所を対象にかんきつのせん定研修会を開催.....	23
■南予地方局 産地戦略推進室.....	23
販売額増加を目指して！.....	23
産直市で推し野菜等と産品交流品を PR.....	23
■八幡浜支局 地域農業育成室.....	24
青年農業者組織が八幡浜・松山の小学生へかんきつを PR！.....	24
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班.....	24
梨「新高」の高温障害軽減効果を実証.....	24
地元イベントで青年農業者が農産物を PR.....	25
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班.....	25
にんにく種苗費低減に向けた実証試験を開始.....	25
■農産園芸課 企画調整グループ.....	26
農林水産業に関わる女性農業者同士が交流！.....	26
県下の普及指導員等が一堂に会し自己研鑽！.....	26
■農産園芸課 高度普及推進グループ.....	27
データ駆動型施設野菜栽培実証事業に係るデータ分析・活用講習会を開催.....	27

10月のトピックス5選

標題	サル捕獲演習を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年10月27日		場所	東予地方局西条第二庁舎及び西条市吉岡地区
指導対象	四国中央市、新居浜市、西条市鳥獣担当者、えひめ地域鳥獣管理専門員		連携機関	NPO法人 西条自然学校
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○管内各市の鳥獣害担当者やえひめ地域鳥獣管理専門員の資質向上等を目的として、実際にサルの捕獲檻を設置し捕獲するまでを体験する第1回講座を開催した。 ○大型檻の設置場所を決定する今回の講座では、事前の目撃情報やセンサーダラマで撮影した現地映像から群れの移動経路を報告するとともに、野生動物の専門家と共に現地に赴き、周辺の状況等を確認しながら檻を設置する候補地を絞り込んだ。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○サルは、比較的平坦な山際を移動しているものの、一部の狭い谷部では森から出て水田を横切って移動していることから、その水田を檻の設置場所とした。 ○今後、計4回の講座を開催する予定で、次回の講座では実際に大型捕獲檻を設置する。 			
				
	事前調査の結果報告	被害地での聞き取り調査	地図上で檻設置場所を協議	

標題	出前授業で特産オリーブの魅力を中学生に伝える		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和7年10月16日		場所	今治市立大島中学校（今治市吉海）
指導対象	中学生（23人）		連携機関	NPO法人アクションアイランド
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○しまなみ特産オリーブの魅力を次代を担う中学生に伝え、認知度向上と理解促進等を目的とした出前授業を生産者NPO団体と連携して実施。 ○当日は、NPO法人の矢野理事長が大島産オリーブの歴史や特徴を講話の後、当室職員が県のオリーブ振興の取組みと挿し木の手順を実演を交えながら指導した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○講話では、耕作放棄地対策からも有効なオリーブを生かした地域づくりなどの取組みを具体例を挙げながら熱弁し、中学生からは「大島のオリーブ栽培がもっと広まって欲しい」「家でも話してオリーブを使ってみたい」などの前向きな意見が多く出された。 ○挿し木体験では、「枝は葉の付け根付近を斜めに切る」「挿し床は貫通しないよう途中で止める」などの留意点を踏まえ、中学生は丁寧かつ楽しみながら作業を終え、学年末には各家庭に持ち帰って管理することとなっている。 ○当室は生産者組織と連携し、オリーブ振興につながる活動を引き続き支援していく。 			
				
	大島産オリーブの歴史等を講話	挿し木の手順を実演	熱心に取り組む中学生	

標題	そらまめの栽培状況アンケートを実施		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年8月27日～9月30日		場所	伊予市及び松前町内各地
指導対象	そらまめ生産者（200戸）		連携機関	JA（えひめ中央、松山市）
普及指導内容	<p>○地方局予算「そらまめ産地強化事業」の一環で、近年問題となっているそらまめの収量低下の原因究明や单収の向上に向けた取組みとして、JAと連携して生産者へアンケート調査を実施した。</p> <p>○アンケートでは、過去4年（令和4～7年産）各年の黄化症状の発生状況や収穫量の多少、摘芯処理の有無等の栽培管理方法を尋ねた。</p>			
結果と今後	<p>○管内そらまめ生産者61戸から回答があり、課題となっている着莢期以降の黄化症状は、令和5年産の発生程度29%が過去4年間で最多となっており、4月中旬で症状が発生すると出荷量が減少する可能性が高いことが分かった。</p> <p>○また、黄化症状の発生が多い地区を、地図上において明らかにすることことができた。</p> <p>○生産者からは「黄化症状の発生は排水不良が原因ではないか」との意見が多く寄せられた一方で、一度も黄化症状が発生していない生産者も存在した。</p> <p>○引き続き、関係機関と連携した巡回指導や栽培実証等により対策技術の検討を進める。</p>			
 <p>黄化症状の発生地区</p>				

標題	「河内晩柑」の販路拡大に向けた輸出支援		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和7年10月1日、2日		場所	愛南町御荘平山
指導対象	「河内晩柑」生産者 1人		連携機関	愛南町、食ブランドマーケティング課
普及指導内容	<p>○愛南町の主幹品目「河内晩柑」の更なるPRと販路拡大に向け、欧州各国への輸出を支援している。</p> <p>○輸出先からはGLOBALG.A.P.の認証取得が求められており、10月1日、2日に行われた事前検討会を踏まえ、関係機関と役割分担し、生産者に園地の管理指導、書類作成支援を実施しながら認証取得に向け指導している。</p>			
結果と今後	<p>○11月から栽培管理の詳細な記録を開始することとなり、本審査は2月の予定。</p> <p>○輸出中の腐敗果の発生や使用可能な農薬の制限などの課題もあるため、引き続き、関係機関と連携を密にし、輸出拡大に向け支援していく。</p>			
 <p>GGAP 事前検討会</p>				

標題	篤農家から栽培技術を学ぶ～「媛小春」秋季現地研修会を開催～		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室 南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年10月7日		場所	八幡浜市保内地区、川上地区
指導対象	「南予の媛小春」魅力アップ協議会会員等(18人)		連携機関	「南予の媛小春」魅力アップ協議会
普及指導内容		<ul style="list-style-type: none"> ○県オリジナル品種「媛小春」の早期成園化による生産拡大と連年安定生産を目的に、同協議会が現地で開催する研修会を支援した。 ○研修会では、篤農家がヒリュウ台の苗木管理とカラタチ台の秋せん定の手法を説明。 ○両室から、ヒリュウ台の生育管理の注意点や生育調査結果を基に果実品質等の傾向を報告した。 		
結果と今後		<ul style="list-style-type: none"> ○昨年植え付けた苗木の状況や篤農家による秋せん定の実演を見た参加者からは「ヒリュウ台でも適切な管理で大きくなることが分かった」「みかんとは異なるせん定方法で驚いた」などの意見があった。 ○今後は、実証試験の調査を通じて安定生産技術の確立を進めるとともに、「媛小春」の魅力を生かしたPR活動や販売支援に努める。 		



左：篤農家による説明

右：3年生媛小春ヒリュウ台苗木

(昨年1年生を定植)と身長

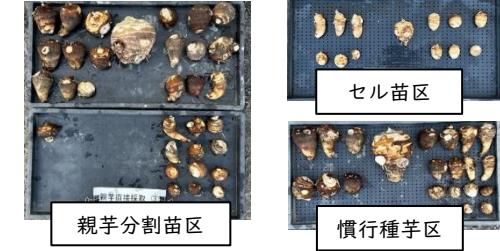
155cmの職員との比較

えひめ農業

標題	ナガエツルノゲイトウの駆除対策を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年10月24日		場所	西条市内各地
指導対象	発生農地管理者他(8人)		連携機関	西条市、JA周桑
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○管内2地区でナガエツルノゲイトウ(特定外来生物)が確認されたため、農地管理者等と水稻の収穫後の水田、畦畔、畑地で除草剤による防除に取り組んだ。 ○事前に市担当課、JAに農地での確認状況を説明するとともに、農地管理者には、断片でも容易に生育するナガエツルノゲイトウの生態や除草の注意点等を説明した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○当初注視していた水田内ではなく、水稻の除草剤の効力がない水田隅の高い場所や畦畔、畑地等生育が旺盛となっている箇所を中心に除草剤を散布した。 ○当室では、除草剤散布後の状況や翌春の発芽状況を関係機関と確認しながら、農地管理者に対し残存株の効果的な駆除方法の指導を行う。 			
				
	水田での生育状況(隅の高い場所)	水田畦畔の除草剤散布	畑地の除草剤散布	

標題	青年農業者のプロジェクト発表で中国四国ブロック最優秀賞を受賞	機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年10月29日	場所	松山市道後
指導対象	西条地区青年農業者連絡協議会	連携機関	西条市、新居浜市
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○松山市で開催された「第57回中国四国地域若い農業者のつどい」において、各県代表によるプロジェクト発表が行われ、県代表として西条市の豊田果歩氏がアスパラガスの廃棄部分を使ったお茶の商品化について発表した。 ○発表では、販売までの経緯やメディア展開、地元での波及効果等について説明した。 		
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○豊田氏は、地元青年農業者グループと連携した活動展開やメディアを使った発信等が評価され、中四国ブロックの最優秀賞を受賞し、来年3月に東京都で開催される「第64回全国青年農業者会議」で中国四国ブロック代表として発表を行うこととなった。 ○今後も、青年農業者や新規就農者の活動に対し、細やかな支援活動を継続する。 		
			
	プロジェクト発表	最優秀賞を受賞	豊田氏と協議会員

標題	新規就農者が花木栽培を学ぶ研修会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年10月23日		場所	西条市中川、花き研究指導室
指導対象	新規就農者、青年農業者等(10人)		連携機関	西条市、新居浜市、JA周桑、花き研究指導室
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 新規就農者や青年農業者が栽培技術や経営知識を学ぶ研修会の第5回講座として、花木類の栽培技術を学ぶ現地研修会を開催した。 研修会では、ハウス内で花木類を周年出荷しながら約20品目の花木苗を増殖し管内の生産者に提供する農家から、栽培技術等について説明するとともに、花き研究指導室から新規枝物品目の紹介と栽培管理方法について指導を行った。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> 出席者からは、苗増殖時の管理方法や成木管理の注意点のほか、出荷先との関係を構築するための方法など実践的な質問が挙がり、花木栽培への関心の高さが伺えた。 次回12月の講座では、複式簿記の決算処理や加工ねぎの栽培技術などを学ぶ研修を予定しており、今後も新規就農者や青年農業者の活動を支援していく。 			
				
	花木の栽培管理の説明	花木苗の増殖技術の説明	花き研究指導室での説明	

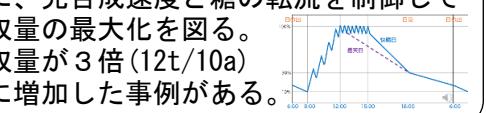
標題	さといもの新たな種芋増殖技術の確立に向けて収量調査を実施	機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年10月17日	場所	西条市内各地
指導対象	さといも増殖実証農家(3人)	連携機関	JA(周桑、えひめ未来)
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> さといもの優良種芋確保のための新技術「親芋直接採取増殖法」の確立に向け、管内の実証ほ場において収量調査を行った。 実証ほ場には、親芋分割苗区、セル苗区、慣行区(種芋利用)の3つの試験区を設置しており、事前の地上部調査では、親芋分割種芋区は、セル苗区、慣行区と比較して生育初期から旺盛な生育がみられていた。 		
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> 収量調査では、親芋分割苗区が最も多く土壌病害の発生も無かったことから、親芋分割苗区では、増殖時の加温処理により定植後の萌芽や本葉の展開、小芋の着生等が早く、本年の早い梅雨明けや夏場の異常高温等にも対応できたものと推察された。 本年度の結果を基に、次年度はより簡易で低コストな増殖技術の確立、普及を図る。 		
			
	掘り取り調査	子芋、孫芋の仕分け作業	収量調査の結果

標題	白いも実証ほの収穫調査を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年10月8日、9日、15日、21日		場所	新居浜市角野及び大島
指導対象	白いも生産農家（3人）		連携機関	新居浜市
普及指導内容	○新居浜市で生産されている白いもの生産拡大を推進するため、大島及び陸地部に適応する品種選定を行う実証ほで収穫調査を実施した。 ○七福芋を含む8品種の収量及び糖度、食味、土壤の肥料濃度等を調査した。			
結果と今後	○調査の結果、陸地部でも栽培条件等によっては大島と同品質の芋を収穫することができたものの、一部の品種では裂開果が多く発生したことから、次年度は、乾湿の差を少なくする栽培法や、品種特性に合った栽培法等の検討が必要となった。 ○今後も引き続き新居浜市と連携しながら、白いも産地の育成、ブランド化を推進する。			
				
大島での堀取り調査		陸地での堀取り調査		糖度測定

標題	「東予で農業ボランティア」今治市へ横展開始める		機関名	東予地方局農業振興課
年月日	令和7年10月3日、20日、28日		場所	JAおちいまばり営農事業部、東予地方局今治支局
指導対象	農業ボランティア利用希望者（30人）		連携機関	JAおちいまばり
普及指導内容	○東予地区では、令和6年度から農業労働力確保及び農業の魅力発信のため、局予算を利用し農業バイトアプリ「デイワーク」と地域ポイントを活用した有償ボランティアの仕組を構築しているところ。 ○昨年度の西条市に加え、今年度は今治市へも活動を拡大することとしており、農家及びボランティア希望者対象の説明会を実施した。			
結果と今後	○参加した農家からは、西条市での実施状況のほか、マッチング時期や保険の加入などについて質問があり、10月末までに農家5戸が登録した。 ○今治市では、引き続き地元企業等に参加を呼びかけるほか、12月初旬に収穫イベントを実施するなどして事業を広く周知することとしている。			
				左：農家説明会で仕組を紹介 右：参加者へアプリ登録を説明

標題	ベテラン農家が新規栽培希望者に挿し木指導		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和7年10月31日		場所	JAうま野菜集荷場
指導対象	花木栽培者（3人）、花木新規栽培希望者（4人）		連携機関	JAうま
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○「うまの花」の生産拡大を図るために、栽培希望者に対し栽培概要を説明し、苗木の安定確保に向けた挿し木講習を実施した。 ○ヒムロスギはクリスマスシーズンに安定的な需要があることなど、需要動向の説明を行うとともに、挿し木の基本技術について指導した。 ○また、ベテラン農家が挿し穂の取り方、挿し床の作り方、挿し方等、育苗管理のコツについて経験をもとに丁寧に説明した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○栽培希望者はベテラン農家の説明に対し、熱心に質問し写真を撮影するなど、挿し木実習に積極的に取り組み、基本技術を学んだ。 ○今後、6月の定植まで各自が育苗管理するとともに、講習会等で定植技術の指導を行い、「うまの花」の生産拡大を推進する。 			
			<p>左：ベテラン農家が育苗管理のコツを説明</p> <p>右：新規栽培希望者が挿し木実習</p>	

標題	認定農業者がさといもの視察研修を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和7年10月24日		場所	徳島県鳴門市
指導対象	四国中央認定農業者等連絡協議会 土居・三島支部会員（8人）		連携機関	－
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○近年、夏季の高温乾燥により、さといもの収量や品質に影響がでており、その対策の一助とするため、バイオスティミュラント資材（BS資材）の活用について視察研修を実施した。 ○BS資材の製造販売を行っているOATアグリオ株式会社では、BS資材の特性や使用方法について研修するとともに、BS資材を活用している農家との意見交換を実施した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○メーカーの担当者からは、BS資材の導入は浅く、さといもの活用事例は少ないものの、様々な野菜において高温対策の効果があった事例を聞くことができた。 ○また、BS資材を利用している農家からは、水稻で腹白米が少なくなったので次年度も利用したい、との前向きな意向を確認することができた。 ○近年の高温乾燥の影響は大きいため、引き続き、情報収集と実証等を行うこととしている。 			
			<p>左：OATアグリオでの研修</p> <p>右：利用農家との意見交換</p>	

標題	オランダ式環境制御技術の導入に向けてフォローアップ研修会を開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年10月23日		場所	西条市壬生川
指導対象	いちご生産者(12人)		連携機関	JA周桑、JAえひめ未来
普及指導内容	○オランダ式環境制御技術等の導入により大幅な単収向上を目指す「いちご新技術導入促進事業」(局予算、R7年度～)の一環として、普及指導員による第1回のフォローアップ研修会を開催した(全6回予定)。 ○環境モニタリング機器の設置や生育調査の方法について、実演しながら説明した。 ○さらに、樹づくり期(～12月)における、データを活用した栽培管理方法も指導した。			
結果と今後	○生産者からは「生育調査は手間がかかるが、自分の状況を把握するために、頑張って取り組みたい」「小規模な研修会は質問しやすくてありがたい」との声が聞かれた。 ○今後は、生産者自らが生育調査や環境測定を行い、普及指導員がそのデータを分析して、環境制御の理論に基づいた栽培指導を行う。 ○さらに、いちごの生育ステージに合わせて専門家によるセミナーを3回、普及指導員によるフォローアップ研修会を5回開催することで、新技術の普及を図っていく。			
				
<p>環境制御技術</p> <p>施設園芸大国オランダ発祥の技術。栽培環境(温湿度、日射量等)や生育(葉面積、展葉速度)のデータをもとに、光合成速度と糖の転流を制御して収量の最大化を図る。収量が3倍(12t/10a)に増加した事例がある。</p> 				

標題	いちご花芽検鏡の手法を学ぶ研修会の開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年10月7日		場所	西条市神戸
指導対象	JA営農指導員、いちご生産者等(9人)		連携機関	JA(えひめ未来、うま)
普及指導内容	○当室では、標記研修会をJA営農指導員および意欲の高い生産者を対象に開催した。 ○管内のJAは、職員の異動頻度が高く、花芽検鏡技術を習得している営農指導員が少ない状況にあったため、営農指導員の技術向上を目的として本研修会を実施した。 ○研修会では、普及指導員がモニターを用いて検鏡の様子を実演しながら、手法を解説した。			
結果と今後	○受講者からは「モニター越しで実演してくれたおかげで、どのように葉を剥くかが分かりやすかった」「次年度は自分たちで花芽検鏡をやりたい」との声が聞かれた。 ○通常、習得には30苗程度練習する必要があるが、3苗で習得した受講者も見られた。 ○今後は、JA営農指導員と協力し、管内の花芽検鏡を行っていく。			
				
<p>花芽検鏡</p> <p>いちご苗に花芽が形成されているかを確認するために、実体顕微鏡で生長点を観察する作業。</p> <p>花芽形成前に定植すると、収穫の開始が大幅に遅延するため適期定植の判断に欠かせない。</p> 				

標題	首都圏の市場で花木を PR		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年10月10日		場所	(株)中央花卉(大田市場 花き部内)
指導対象	JA周桑花木分科会		連携機関	JA周桑
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○儲かるモデル産地育成システム確立実証事業を活用し、市場動向に即した出荷体制の構築を目的として、花木の市場調査を行った。 ○大田市場内の仲卸企業の店舗前において、来店客にチラシを配布しながら販促活動を行うとともに、花き部内の展示スペースで5日間にわたり花木の展示を行った。 ○また、主要な出荷先である他の2市場と都内の花屋3軒を訪問し、消費動向の調査を実施した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○今回の調査では、リピート購入している消費者が多く、周桑産花木の品質が高く評価されていることが窺えた。 ○その一方で、メラレウカは流通過程で葉先が黒くなる品質低下が指摘されており、萎れ防止策の検討が必要であることを再認識した。 ○今後も関係機関と連携し、流通業者等の意見を踏まえた花木産地づくりを支援する。 			
			<p style="text-align: center;">左：販促活動 右：花木の展示</p>	

標題	東予花木生産者のネットワークが始動		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年10月29日		場所	東予地方局西条第二庁舎
指導対象	東予花木生産者(5名)		連携機関	JA(うま、えひめ未来、周桑、東予園芸、おちいまばり)、四国中央農業指導班、今治支局産地戦略推進室
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○東予管内の意欲的な生産者が集まり、会員相互の技術向上を通じて、儲かる花木栽培の実現と花木産地の発展を目指すネットワークを発足した。 ○生産者から「気軽に疑問を共有できる場が欲しい」「同じ志を持った仲間と産地を盛り上げたい」という声があり、当室が立ち上げを支援した。 ○初回の活動としてキックオフ会を開催し、ネットワークの目的や今後の活動方針を共有した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○参加したメンバーからは「気軽に相談できる場ができたことで不安が払拭できた」「一人では時間がかかる課題を共有し、解決策を考えたい」など、多くの意見が出た。 ○メンバー相互で「儲かる花木産地を目指す」というビジョンを共有し、意識の統一を図ることができた。 ○次回はメンバーの園地にて互評会を実施し、意見交換を行う。 			
		キックオフ会		

標題	石鎚黒茶の新茶を市民に披露		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年10月25日		場所	いとまち（西条市）
指導対象	石鎚黒茶協議会		連携機関	西条市産業振興課
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○当室が活動を支援している石鎚黒茶協議会が、今年産の石鎚黒茶の出来栄えを西条市民に広く知ってもらうためのイベントを開催した。 ○協議会に所属する4団体が共同で試飲イベントを開催するのは今回が初めてである。 ○イベントでは、4団体が製造した黒茶の飲み比べ、石鎚黒茶の発酵を研究している（国研）産業技術総合研究所の堀江先生によるミニセミナー、石鎚黒茶のクイズラリー、四国の発酵茶「碁石茶（高知県大豊町）」や「上勝阿波晩茶（徳島県上勝町）」の試飲のほか、県立西条農業高校、黒茶を使った加工品等を扱う企業にも参加を呼びかけマルシェを開催した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○市長をはじめ、西条市民に試飲を実施したことで、石鎚黒茶の新茶の味を知つてもらうことができた。 ○同協議会では、11月から開催される市内及び県内のイベントにも積極的に参加することになっており、当室も石鎚黒茶の魅力を広く発信できるよう支援を行う。 			
				
	堀江先生によるミニセミナー	石鎚黒茶の新茶試飲会	お茶マルシェ	

標題	コーヒーの試験栽培を開始		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年10月28日		場所	西条市壬生川
指導対象	石鎚コーヒー研究会（2人）		連携機関	（株）GMUS
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○当室では、温暖化に対応する新たな戦略品目としてコーヒーを推進しており、このたび、若手農業者の賛同を得て、県内初となるコーヒーの試験栽培を開始した。 ○栽培は場は、バラ栽培を休止したガラスハウスを活用し、主要4品種の苗木40本を定植した。 ○定植にあたり、苗木の植栽方法や冬季の防寒対策について指導した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○今後は、初収穫となる3年後を目途に、品種の適応性やコーヒーの収益性を検証し、東予地域における経済栽培の可能性を探る。 ○試験は場を核として、コーヒー栽培の機運醸成を図り、「石鎚コーヒー」ブランドの立ち上げに向けて引き続き推進する。 			
				
	バラの空きハウスを活用	ティピカ	ブルボン	THA1
				カティモール

標題	シュンギク品種試験の実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年10月9日		場所	今治市玉川
指導対象	JAおちいまばり春菊部会(11人)		連携機関	JAおちいまばり
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○今治市玉川地区では、甘長トウガラシの後作でシュンギクを栽培し特産化を図っている。 ○シュンギクは、近年の初秋期の高温による発芽不良等により生産量が減収し、販売額も年々減少しているため、7品種の品種試験を実施した。 ○また、定植作業の省力化を図るため、9月チェーンポットには種したシュンギクの定植を行った。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○発芽試験の結果、従来部会で取り組んでいた品種は、他の品種と比較し、発芽率が2割程度に留まることが分かったため、11月中旬に行う収量調査の結果を鑑みながら、部会で有望品種の選定を行うこととなった。 ○チェーンポットによる定植は、従来の定植作業と比較し、コストは10%増となるが、作業時間は30%削減できることから、今後部会での導入を推進していく。 			
			左：チェーンポットによる定植 右：定植後の生育	

標題	農福連携に新たなさといも生産者が参加		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年10月17日		場所	今治市朝倉下
指導対象	(NPO) アクティブマインド(7人)、さといも生産者(1人)		連携機関	—
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○農福連携活動に取り組む就労支援施設「アクティブマインド」の関連施設「工房マインドDAN」が、新たにさといも収穫に取り組むこととなり、農福連携に取り組む朝倉地区の園地で収穫作業の体験会を開催した。 ○「アクティブマインド」は一昨年から収穫作業を経験しており、関連団体である「工房マインドDAN」でも情報共有、作業手順の理解が進んでいたため、スムーズに活動できた。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○当室は、同施設の支援員を対象に収穫手順を確認するとともに、作業当日は利用者が安全に作業できるよう支援した。 ○同施設の利用者は、楽しく安全に作業を進めることができたとして、今後も共同で収穫作業を行うこととしており、当室は引き続き両者の活動を支援する。 			
				

標題	経営開始に向けた経営研修会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年10月8日		場所	愛媛県農業共済組合今治出張所
指導対象	農業研修生等(7人)		連携機関	愛媛県農業共済組合東予支所
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○経営開始前・準備研修会(8月開催)に参加した農業研修生等を対象に、経営開始後必要となる青色申告や収入保険制度を学ぶ場として経営研修会を開催した。 ○税理士より青色申告制度について、農業共済より収入保険制度の説明を行い経営管理についての理解を深めた。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者からは「経営開始後、青色申告をする意義を理解することができた」「気象災害に備えるために収入保険制度への加入を検討していきたい」等の意見を聞くことができた。 ○今後も、就農後の経営確立に向け栽培技術の習得支援とあわせて、経営管理についても支援をしていくこととしている。 			

標題	かんきつ園鳥獣被害軽減に向けた集落見回り活動	機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年10月27日	場所	今治市大西町山之内集落
指導対象	集落農業者(2名)	連携機関	今治市
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○山之内集落かんきつ農業者を対象に鳥獣被害軽減を図ることを目的とした集落見回り活動と防護柵の設置実習等を実施した。 ○山之内集落における鳥獣被害の現状について説明後、集落農業者・市役所職員とともにイノシシ被害園のかんきつ園内の被害状況や鳥獣の痕跡、防護柵の確認を行った。 ○点検によって見つかった不具合箇所を補強し、今後の鳥獣害対策について意見交換を行った。 		
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○集落内で10月2日に対策を実施したかんきつ園では、現在までイノシシの侵入痕跡は確認されていない。 ○集落内の防護柵未設置のはれひめ園地では、イノシシによる果実の食害や掘り返しが確認されたことから、防護柵設置を提案した。 ○当集落は、今年度のえひめ鳥獣管理専門員実践活動地域でもあり、集落農業者と関係機関が連携し、地域に応じた鳥獣害対策を継続的に行い、被害防止に取り組む。 		



集落農業者に鳥獣被害の現状について説明



見回り活動で確認されたはれひめの食害

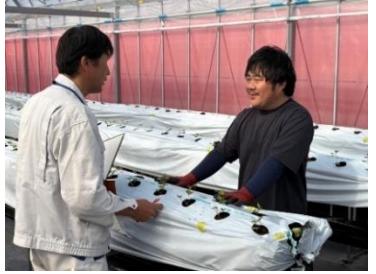


イノシシ侵入が想定される場所の補強作業

標題	鳥獣害防止対策集落見回り活動を実施		機関名	今治地方局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和7年10月28日		場所	今治市上浦町盛
指導対象	新規就農研修生等(7人)		連携機関	獵友会、JAおちいまばり、今治市
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○イノシシの侵入被害が確認されている再編復旧園と近隣のかんきつ栽培ハウスにおいて、集落見回り活動を実施し、被害状況の確認や対策に向けた意見交換を行った。 ○近年、被害が増加しているハウス栽培での鳥獣害対策について、イノシシの習性に合わせた具体的な対策方法とその重要性について指導した。 ○また、新規狩獵免許取得者の増加に向け、各種補助事業の有効活用や、獵友会加入のメリット等について、獵友会員等と意見交換を行った。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○研修生からは、就農後も、この活動で得た知見を活かして、被害獣種や園地条件に合わせた適切な対策を行いたいとの意見があった。 ○今後も引き続き、集落や近隣園地と連携した対策の実施や、地域の捕獲者の増加に向けて支援し、被害減少を図っていく。 			
			<p>左：イノシシの侵入経路の確認 右：ハウス栽培における 鳥獣害対策について指導</p>	

標題	イタリア雑誌・レストランとコラボしたイタリア野菜・オリーブ収穫イベントを支援	機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和7年10月26日	場所	ポパイズクラブ園地(今治市吉海)
指導対象	ポパイズクラブ会員(10人)	連携機関	-
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○当室が推進しているイタリア野菜・オリーブの更なる振興を図るため、雑誌(イタリア好き)と東温市のレストラン(ロカンダ デル クオーレ)がポパイズクラブとコラボし、昨年に引き続き実施したイベントの運営を支援。 ○東京等から総勢20名が訪れ、オリーブの収穫体験やイタリア野菜をふんだんに使った料理を楽しみながら、当室が大島産オリーブや今治産野菜の特徴などを伝えた。 		
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○ポパイズクラブ藤本世話人の軽快な説明に加え、イタリアンを通じた大島産オリーブの情報発信が功を奏し、オリーブオーナー制度に多くの申し込みがあるなど盛況のうちに終了。 ○継続開催を望む声が多く聞かれたほか、移住に关心を寄せる者もいた。 ○当室は来場者にSNS等での情報発信を依頼するなどの取組みを通じ、今後もイタリア野菜やオリーブの振興につながる活動を積極的に企画・支援していく。 		
			
	<p>オリーブの特徴を軽快に説明 収穫したオリーブを自ら選別 オリーブ・イタリアンに舌鼓</p>		

標題	女性農業者がかんきつ栽培技術について視察		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年10月2日		場所	上島町岩城島
指導対象	若手女性農業者組織「しとらす」(12人)		連携機関	今治支局地域農業育成室しまなみ農業指導班
普及指導内容	<p>○当室は、会員の基幹品目であるかんきつの栽培技術向上・知識習得を目的に、しまなみ農業指導班岩城駐在の技術実証園における取組状況について視察研修を実施した。</p> <p>○本研修では、レモンやはれひめ、甘平をはじめとしたかんきつ品種の栽培手法やマルチシート・専用ネットを用いた防草栽培の説明を受けると共に、スピードスプレーヤ・自動せん定バサミ等といった農機実演を交えながら、質疑応答を行った。</p>			
結果と今後	<p>○会員からは、せん定及び摘果方法など栽培技術における質疑が積極的に行われたほか、防草ネットや刈込機械等の導入を検討するなど、高品質果実栽培と作業省力化への意識向上につながった。</p> <p>○今後も、女性農業者のスキルアップ及び働きやすい作業環境づくりに向けて農機導入促進など組織支援をしていく。</p>			
 		<p>左：栽培技術の説明を受ける会員</p> <p>右：農機の実演</p>		

標題	JAと連携した就農研修生に対する指導の強化		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年10月16日、23日		場所	JA松山市新規就農研修センター JAえひめ中央新規就農研修センター
指導対象	JA新規就農研修センター研修生(10人)		連携機関	JA(松山市、えひめ中央)
普及指導内容	<p>○研修開始から6か月を経過した研修生10人に対して、野菜等の栽培技術の習得状況や農業機械の操作方法等農作業安全に対する取組みを確認するため面談を実施した。</p> <p>○当日は、研修ほ場で具体的な農作業手順を指導するとともに、今後の作業スケジュールや準備状況について聞き取りを行った。</p> <p>○特に、今年度から栽培を開始したいちご栽培については、研修生から改めて各種作業(培土の準備、かん水チューブの設置、マルチ張り、定植等)の内容や苦労したことを見聞き取り、注意すべき点や問題発生時の対応について指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○研修生は、かんきつや野菜の栽培技術を習得するとともに、農業機械の安全操作や簡単な故障等の対応技術を身に付けていることを確認した。</p> <p>○引き続き定期的に研修状況を把握するとともに、今後は、就農予定地での営農開始を想定した、より踏み込んだ研修指導となるよう取組みを強化する。</p>			
 		<p>左：いちご栽培の指導 (JAえひめ中央研修生)</p> <p>右：研修状況の聞き取り (JA松山市研修生)</p>		

標題	高校と連携して女性農業者組織の商品開発を支援		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和7年10月2日		場所	県立伊予農業高校
指導対象	女性農業者組織「葉れるや」会員(9人)		連携機関	県立伊予農業高校
普及指導内容	<p>○当班では、女性農業者の定着を目的にスキルアップの一環として、当地域主力品目「はだか麦」のPRと利用拡大を図る新たな商品開発のため、伊予農業高校食品化学科の2年生とプロジェクト活動を企画、技術交流を支援した。</p> <p>○はだか麦粉100%のピザ生地づくりにチャレンジしたところ、加熱時の独特な香りや粘りが弱く膨らみが小さいことに気づき、会員は生徒らと一緒に改善に向けての加工アイデアを出し合った。</p>			
結果と今後	<p>○会員は、ピザ生地の材料の合わせ方や練り方の手法と2度発酵する製造過程で様々な加工機器の必要性を感じ、加工時間や資材コストを考慮した商品化について意見を交わした。</p> <p>○次回は、起業資金や活動時間を念頭に、はだか麦の特性を活かす新たな加工を研究することとし、令和8年2月に研修を開催予定。</p>			
		<p>左：はだか麦利活用の技術交流</p> <p>右：生徒と商品のアイデアを創造</p>		

標題	集落見回り活動による鳥獣害対策を強化		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和7年10月28日		場所	伊予市中山町佐礼谷地区
指導対象	佐礼谷集落代表者、獣友会員(2人)		連携機関	伊予市
普及指導内容	<p>○「鳥獣害防止対策月間」の取組みとして、鳥獣害防止に向けた意識啓発を図るため、伊予市及び鳥獣管理専門員と連携し、集落見回りを実施。</p> <p>○イノシシの侵入を防ぐ電気柵においては、雑草の接触による漏電を防ぐため、電気柵周辺の定期的な草刈の徹底をアドバイスした。</p> <p>○箱わな周辺で、イノシシの掘り起こし等痕跡を確認したので、成獣の効果的な捕獲ができるよう集落代表者及び獣友会員と蹴り糸の位置等について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○電気柵の電圧チェックや箱わなの蹴り糸の位置調整などの基本管理の徹底による認識の深化を図った。</p> <p>○今後も定期的な見回り等を行い、鳥獣害に強い集落を育成、支援していく。</p>			
		<p>左：電気柵の電圧をチェック</p> <p>右：箱わなの蹴り糸の協議</p>		

標題	トマトの高温対策品種研修会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和7年10月9日		場所	久万高原農業指導班実証ほ場
指導対象	JA松山市久万高原トマト部会員(35人)		連携機関	JA松山市
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○出荷先の市場関係者から栽培が要望されているトマトの高温対策品種「桃太郎みなみ」について、トマト部会員に栽培概要を説明する現地研修会を開催した。 ○JA担当者が従来品種との違いや栽培した場合の留意点について説明するとともに、県担当者が品質や出荷額の結果を説明した後、桃太郎みなみを栽培しているハウスを見学し、意見交換を行った。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○意見交換では、若い生産者を中心に品種更新や規模拡大について前向きな意見が聞かれる一方で、果実が小さくなる点に難色を示す生産者もいた。 ○今後もJAや部会と連携し、「桃太郎みなみ」の面積拡大に向けて指導を行っていく。 			
			<p>左：品種の特性を説明</p> <p>右：栽培状況を確認する参加者</p>	

標題	青年農業者組織が餅つき実演販売を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和7年10月18日, 19日		場所	久万公園
指導対象	久万高原町青年農業者連絡協議会(21人)		連携機関	久万高原町
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○久万林業まつりにおいて、久万高原町青年農業者連絡協議会の地域貢献活動の一環として実施された恒例の餅つき実演販売を支援した。 ○今回の活動は、会員同士の関係強化や組織力の向上を目的に実施した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○餅には久万高原町産の餅米を使い、当班が栽培やとう精を支援したこきびを使用した「こきび餅」、同町産のよもぎ粉を使用した「よもぎ餅」「白餅」の3種類を用意するなど地元の農産品を広くPRすることができた。 ○また、今年新たに入った研修生も活動に参加し、先輩会員との交流を深め、組織の結束力強化に繋がった。 			
			<p>左：餅つき実演販売</p> <p>右：来場者による餅つき体験</p>	

標題	「久万高原秋の収穫祭」で指導班の活動を紹介		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和7年10月26日		場所	久万農業公園アグリピア
指導対象	収穫祭来場者（約800人）		連携機関	久万高原町、JA松山市 他
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○久万高原地域の活性化を図るために、「第19回久万高原秋の収穫祭」の運営支援を行い、町内外から来場する生産者、消費者等との交流を図った。 ○当班で実施している青年農業者や生活協議会の活動支援、雑穀栽培の推進をはじめ、水稻・トマト・ピーマンの試験結果をパネル展示し成果を広く紹介した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○地域食材の需要拡大を図るために、雑穀（たかきび）を使用したクーマカレー（160食）を用意し、アンケート調査を行ったところ、「たかきびのチチチした食感が好き」「飲食店で販売したら食べに行きたい」「家庭でも作ってみたい」等の意見があった。 ○青年農業者協議会が実施した、小学生以下の餅つき体験を支援し、消費者との交流を深めた。 ○多くの来場者があるなか、当班のパネル展示にも熱心に見入る人も多数あり、久万高原地域の農業や普及活動の取組みへの関心を高めることができた。 			
	行列ができたクーマカレーの配布	子供らとの餅つき体験	パネルに見入る来場者	

標題	甘平の裂果対策実証について		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年7~10月		場所	松山市泊、祝谷、荻原
指導対象	甘平裂果対策実証は設置農家（3戸）		連携機関	JA（えひめ中央、JA松山市）
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○甘平の安定生産における課題である裂果については、近年の夏秋期の高温乾燥や極端な降雨等により助長される傾向があるため、対策技術の確立に取り組んでいる。 ○かん水方法や結実方法の違いに加え、BS資材を活用した場合の裂果率軽減効果等について現地調査を行い、この度、裂果調査が終了した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○今年は、過去2年と同様、夏秋期の高温乾燥より裂果が見られたが、適度な降雨があったことから、全体的には、過去2年よりも生産量は増加する見込み。 ○実証では、かん水方法や結実管理により、モデル園の裂果率は約30%に抑えられたが、BS資材では効果が判然としなかった。 ○今後、収量調査を経て実証結果を取りまとめ、3月に生産者や関係機関と検討会を開催する。 			
<p>【BS 資材】</p> <p>バイオステイミュラントと呼ばれる従来の農薬、肥料、土壤改良資材とは異なり植物や土壤本来の機能を補助し、ストレスを軽減し生育を促進する剤</p>				
		土壤水分メータによる水分量測定	マルチ、点滴かん水による土壤水分保持	

標題	かんきつ日焼け果軽減実証の結果概要		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年10月16日		場所	宇和島市各地
指導対象	一		連携機関	JAえひめ南、みかん研究所
普及指導内容	<p>○夏期の高温によるかんきつ日焼け果の発生が課題となっていることから、連携機関と協力して、炭酸カルシウム剤等を利用した軽減対策を検討した。</p> <p>○実証は、温州みかんと「せとか」を対照に、併せて15園地において、7月上旬から薬剤を1～3回散布し、日焼け果の発生状況等を調査した。</p>			
結果と今後	<p>○散布区の日焼け果発生率は、無散布区に比べ半分程度に抑えることができたが、資材によっては果実に白斑が残る等の課題が確認された。</p> <p>○次年度も調査を継続するとともに、着果位置も含め軽減対策の指導方針を検討する。</p>			
			<p>左：薬剤散布 右：日焼け果の発生調査</p>	

標題	宇和島市女性農業者グループの活動が始動		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年10月21日		場所	(有)熊野養鶏（四国中央市）、さいさいカフェ（今治市）
指導対象	女性農業者グループ（5人）		連携機関	一
普及指導内容	<p>○今年3月に宇和島市の女性農業者の有志が集まって発足したグループ「宇和島ルリアン」は、「ひめの国一次産業女子活躍推進事業」を活用して活動を本格スタートしている。</p> <p>○9月には当室がサポートし、八西地区の女性農業者グループ「∞農ハーベスト」と交流、10月には有限会社熊野養鶏、さいさいカフェで女性起業家の活動等について先進事例調査を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○会員からは、「他のグループや女性起業家の情報発信力の高さを見習いたい」との意見が多かった。</p> <p>○今後は、SNSを活用した農業の魅力発信活動に取り組むこととしており、引き続き当室では、魅力の再発掘や専門家の活用等についてサポートしていく。</p>			
			<p>左：交流会 右：先進事例調査</p>	

標題	農福連携による市田柿の収穫体験支援		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年10月24日		場所	宇和島市三間町
指導対象	NPO法人結の会ゆいの里（支援員3人、利用者3人）		連携機関	JAえひめ南、NPO法人結の会ゆいの里
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○市田柿は剥皮して干し柿にした後、和菓子などに使用されるが、従来の着色歩合による収穫判断は難しい上に、作業時間が長くなることが課題であった。 ○そこで、ほ場全体が着色し全て収穫可能な園地で、事前に障がい者就労施設の支援員と作業内容を精査し、利用者が安全に作業できるよう収穫体験を開催した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○支援員3名、利用者3名が参加し、作業時間85分で約430kgの柿が収穫できた。 ○はさみを使用せず果こう枝を残してもぎ取る作業に最初は手間取っていたが、支援員からの声掛けもあり順調に作業が進み、利用者からも「問題なく作業できた」との意見があった。 ○今後、柿の生産量は増加が見込まれるため、産地育成の一助となるよう継続して農福連携を推進する。 			
		<p>左：支援員及び利用者が 収穫する様子</p> <p>右：収穫した柿</p>		

標題	鳥獣害防止対策集落見回り活動を実施		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和7年10月16日		場所	鬼北町延川地区
指導対象	地区農業者等（5人）		連携機関	鬼北町
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○県の鳥獣害防止対策強化月間（10月）に合わせて、連携機関と共に、鳥獣被害状況の確認や侵入防護柵の見回り活動を行った。 ○当地区は10km以上のワイヤーメッシュ柵で全体を囲んでいるが、近年、くりや水稻でイノシシ被害が発生している。 ○柵の経年劣化により地際の鉄筋がイノシシに破壊され、侵入経路となっていることが確認されたため、柵の補強方法や活用可能な補助事業について情報提供した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○既存柵の強度は全体的には保たれており、劣化した地際を補強することで、被害の軽減が期待できることが理解された。 ○柵の補強については、補助事業の活用も含め、検討していく。 			
		<p>左：見回り前に鳥獣被害や防護柵の 設置状況を確認</p> <p>右：防護柵の見回り</p>		

標題	水田の自動水管理システム等を視察		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和7年10月29日		場所	西条市周布
指導対象	鬼北町営農組合連絡協議会役員5人		連携機関	鬼北町農林課、南予地方局農村整備課
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○水田農業で担い手へ農地集積を進めるには、全作業の6割を占める水管理作業の省力化が課題であるため、同町の集落リーダーを対象に先進事例を研修した。 ○西条市で大区画化、パイプライン化、自動水管理システムの導入事例を視察し、活用した事業の内容や省力化の程度、営農継続の見込み等について、導入集落のリーダーや事業担当者から説明を受けた。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者からは「水田の見回りやバルブ操作の労力がほぼゼロになることは素晴らしいが、受益者負担が課題である」との本音も聞かれた。 ○今後も、担い手への農地集積が進むよう、情報提供等働きかけを続けていく。 			
			<p>左：パイプライン用自動水管理装置 右：道前平野地区の水利管理者の説明</p>	

標題	青年農業者が県内かんきつ産地で視察研修を実施		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和7年10月6日～8日		場所	八幡浜市真穴、松山市難波等
指導対象	愛南地区青年農業者協議会員(10人)		連携機関	八西地区・松山地区青年農業者連絡協議会、果樹研究センター
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○同協議会は、担い手不足に対応した省力化技術や近年の課題である日焼けや鳥獣害防止対策事例の調査や、他地区の青年農業者組織との交流・連携強化を図るため、視察研修を実施した。 ○八幡浜市では、かんきつのAI選果機見学や栽培環境データを活用した温州みかん栽培について、松山市では、中晩柑類における遮光資材による日焼け対策や防鳥ネットの自主施工事例等を視察し、お互いの悩みなどを活発に意見交換した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者からは「得られた知見を自身の経営に生かしたい」「各地区会員とつながりができる、情報共有がしやすくなった」等の意見が聞かれ、一部では早速、防鳥ネット施工の検討を進めるなど、経営改善に意欲的に取り組んでいる。 ○今後も地域の中核となる青年農業者の資質向上、経営改善に向けた活動を支援する。 			
			<p>左：AI選果機の仕様説明 右：雨よけハウスにおける遮光ネット設置事例</p>	

標題	就労支援事業所を対象にかんきつせん定研修会を開催	機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和7年10月14日	場所	南宇和郡愛南町城辺地区
指導対象	NPO法人ハート in ハートなんぐん市場（支援員2人、利用者2人）	連携機関	JAえひめ南
普及指導内容	<p>○同事業所は、障がい者就労支援として「甘平」や「せとか」等のかんきつ生産活動を行っているが、支援員や利用者のせん定技術が未熟であるため、基本的なせん定技術の習得希望があり、農福連携推進事業の一環として研修会を開催した。</p> <p>○実習では、当班とJAえひめ南の営農指導員が、品種ごとの生育特性やせん定のポイントを説明した。</p>		
結果と今後	<p>○支援員からは、「基本的な品種特性を学べた」「せん定方法の疑問が解決した」「他の支援員とも知識を共有したい」等の意見が聞かれた。</p> <p>○今後も就労支援事業所の要望に沿った農福連携活動を推進する。</p>		
		<p>左：品種の特性について説明 右：せん定の実演</p>	

標題	販売額増加を目指して！ 産直市で推し野菜等と产品交流品をPR	機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年10月25日	場所	道の駅みま
指導対象	—	連携機関	道の駅みま
普及指導内容	<p>○産直市の推しとなる農産物の生産振興を図るため、6月に講習した西洋野菜の出荷開始に合わせて、同駅で特設販売台を用いたPRを行った。</p> <p>○また、人気のみま米に「ひめの凜」が登場、他品種との食べ比べセットを企画し販売を後押しした。</p> <p>○さらに、昨年度から集客の目玉として、県外の道の駅等との产品交流を進めており、今回のイベントでは8か所の農産物や加工品販売が実現した。</p>		
結果と今後	<p>○消費者から「西洋野菜は初めてなので食べ方を知りたい」という意見が多く聞かれ、調理法の紹介が購買意欲の向上に繋がることを認識した。</p> <p>○今後も西洋野菜等の食べ方提案を伴った販売や、より魅力のある产品交流への支援を継続し、産直市の活性化や販売額向上を目指していく。</p>		
		<p>左：西洋野菜の食べ方を紹介しながら販売 右：県外の道の駅との产品交流品を販売</p> <p>【推しの西洋野菜】 カリーノケール、カーボロネロ、カリフローレ、ブロフローレ等</p>	

標題	青年農業者組織が八幡浜・松山の小学生へかんきつをPR!		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和7年10月15日、17日		場所	八幡浜市立川之石・日土小学校、松山市立北久米・双葉小学校
指導対象	小学校児童(228人) 青年農業者(6人)		連携機関	八幡浜市
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○八西地区青年農業者連絡協議会が八幡浜市と松山市で実施する西宇和かんきつ出前授業を支援した。 ○3~4年生の児童らに対し、かんきつ栽培のDVD鑑賞や収穫体験等を行った。 ○特に収穫体験では、会員が持参した果実付きの枝を使用し、はさみの持ち方や「二度切り」による収穫方法を指導し、収穫したみかんを試食した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○児童らは、実際にみかんや収穫道具に触れることで、かんきつ栽培への理解を一層深めることができ「仕事をしていて一番大切なことは」「みかん作りをはじめたきっかけは」などと積極的に質問し、強い関心を示した。 ○2月には首都圏での出前授業の実施を予定しており、今後も、農業体験を通じて子どもたちへ地域や農業の魅力を伝える活動を支援する。 			
			<p>左:果実付きの枝を使って「二度切り」を行う 右:児童からのお礼の挨拶</p>	

標題	梨「新高」の高温障害軽減効果を実証		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和7年10月1日		場所	内子町五百木
指導対象	JA愛媛たいき内子町梨研究同志会(8人)		連携機関	JA愛媛たいき
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○内子町で栽培されている梨「新高」は、近年の夏秋期の高温干ばつが原因で、果肉の一部が水浸状となり、更に症状が進むと果皮の黒変や落果に至る高温障害の増加が問題となっている。 ○このため当班は、遮光程度の強い袋掛け資材を使用し、果実温度上昇の抑制による被害軽減を目的とした実証を設置している。 ○今回は、収穫した果実品質を調査し、被害軽減の効果を確認した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○実証区では、強い遮光によって果皮の赤味がやや薄くなるものの、夏季の袋内最高温度を3℃程度低く抑えられたことで高温障害の発生が明らかに減少し、障害程度も軽症に抑えることができた。 ○今後は、同志会で同袋掛け資材の導入を検討することとしており、高温対策技術の普及による高品質安定生産を支援する。 			
			<p>左:袋掛けの状況 (左)実証区(右)慣行区</p> <p>右:高温障害の発生状況 (上)実証区(下)慣行区</p>	

標題	地元イベントで青年農業者が農産物をPR		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	
年月日	令和7年10月13日		場所	たいき産直市愛たい菜	
指導対象	大洲市青年農業者協議会員（6人）		連携機関	大洲市役所、JA愛媛たいき	
普及指導内容				○同協議会員が自ら生産した農産物や協議会活動のPRを目的とした大洲市主催のイベント”産業フェスタ2025”への出展を支援した。 ○会員が生産したレンコンを原料とする「フライドレンコン」を調理・提供する際の衛生管理や、効果的なPRのための店頭ディスプレイ作り等、運営を指導した。	
結果と今後	○新鮮なレンコンをスティック状にすることで注目が集まり、大洲産レンコンの認知度を高めることができた。 ○同協議会は自ら生産した農産物のPR、販売促進に積極的であることから、今後も指導・支援を継続し、地域農業の担い手として育成していく。				
					
収穫直後のレンコン		フライドレンコン		提供の様子	

標題	にんにく種苗費低減に向けた実証試験を開始		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和7年10月21日		場所	西予市野村町大野ヶ原
指導対象	大野ヶ原にんにく組合員（8人）		連携機関	—
普及指導内容				○大野ヶ原で生産している寒地系にんにく（福地ホワイト六片種）は、種苗を青森県から購入しているが、高価で経費に占める種苗費の割合が高いことが課題である。 ○当班では、種苗費低減に向け、大野ヶ原現地や近隣の城川・野村地域での種苗にんにく生産実証試験に取り組み、城川地域産が最も良好で、青森県産種苗と同等サイズのものが生産できることを確認。 ○今年度は、城川地域で生産した種苗を用いた現地適応性試験を開始した。
結果と今後	○今後は、草丈・葉数・収量等の調査を定期的に行い、種苗にんにくとしての適性を確認し、西予地域内で種苗にんにくを供給できる仕組みづくりと種苗費低減を目指す。			
				
左：①大野ヶ原産種苗にんにく ②城川地域産種苗にんにく 右：実証試験（種苗定植）				

標題	農林水産業に関する女性農業者同士が交流！		機関名	農産園芸課企画調整グループ
年月日	令和7年10月9日		場所	砥部町中央公民館
指導対象	県内女性農業者及び関係者 232名 (内、県内女性農業者 163名)		連携機関	農地・担い手対策室、県農業会議 各地方局・支局地域農業育成室、市町
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○女性リーダーとしての資質向上や食農教育・地産地消の推進等を目的に、県下全域の女性農業者等が交流する「愛媛県ふるさとづくり交流会」を開催した。 ○昨年度、県生活研究協議会の大会が第50回の節目を迎えたことを受け、県協議会役員理事等で協議し、今年度は会の名称・会場を変更して実施した。 ○県産農産物や加工品を販売するマルシェや郷土料理・食農教育活動の写真展示、女性農業者の活動紹介パネル展示、農作業事故VR体験、農業相談チャットアプリの紹介に加え、式典や県内4地区の優良事例発表を行った。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○各種展示や優良事例発表を通して、各地域をけん引する女性リーダー育成に寄与し、食を通じた参加者同士の交流を促すことで、女性農業者同士の連携強化を図った。 ○現在アンケート調査中であり、寄せられた意見・提案等も踏まえ、今後も女性農業者組織の活動を継続的に支援し、地域・世代を越えた女性の活躍を推進する。 			
				県産農産物や加工品を販売 郷土料理や食農教育活動の写真展示 4地区の活動事例を発表

標題	県下の普及指導員等が一堂に会し自己研鑽！		機関名	農産園芸課企画調整グループ
年月日	令和7年10月22日		場所	テクノプラザ愛媛 テクノホール
指導対象	県内普及職員及び関係機関 155名 (現地114名、オンライン41名)		連携機関	県普及指導員研究協議会、県農業会議 各地方局・支局、市町、JA
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○普及指導員の技術研鑽を図ることを目的に「愛媛県普及指導員研修大会」を開催した。 ○普及活動優良事例として、中予地方局からパクチー周年出荷産地を目指した取組みを、基調講演では農研機構から近年の気候変動の状況や果樹を中心とした適応策について学んだ。 ○そのほか、関係事業の紹介や今年度新規採用職員の紹介、「愛媛の普及」掲載の活動事例パネル展示を実施。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○県内普及活動の成果や課題を共有するとともに、近年課題となる気候変動に関する知見を得て、有効な適応策検討のヒントを掴むことができた。 ○アンケートでの意見等も踏まえ、今後、更に効果的な研修体系の検討につなげる。 			
				普及活動優良事例を発表 果樹を中心とした気候変動対策を解説 新規採用職員が自己紹介

標題	データ駆動型施設野菜栽培実証事業に係るデータ分析・活用講習会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和7年10月10日		場所	農林水産研究所花き研究指導室
指導対象	モデル農家、JA 営農指導員、普及職員等 (54人)		連携機関	JA、普及拠点等
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○モデル農家（いちご・きゅうり・トマト）の園地に設置した低コスト環境計測機器で計測したデータを栽培管理に活用するため、データ分析・活用講習会を開催。 ○株式会社誠和。から講師を招き、「夏から冬の検討項目」と題し、暑さ対策と今後の管理について学んだ。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○近年問題となっている暑さへの対策について、基礎から学ぶことができ、来年の対策を考える機会になった。 ○11月にいちご、1月にきゅうりとトマトについて品目別の栽培管理に関する講習会を計画しており、指導を通じてデータ活用の手法確立による生産性の向上を図り、儲かる農業の実現を目指す。 			
 <p>暑さの原因と対策について説明</p>				

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543